

LECTURE

講演会報告

をとりまく国際環境」について、1. テロと米軍再編⇒国際協力、米軍基地 2. 中国の軍事的台頭⇒抑止力強化 3. 北朝鮮の核⇒抑止力強化 4. 経済のインテグレーション⇒開放と防衛 5. 中国の台頭⇒市場、労働力、脅威 環境負荷、資源問題などの点を意識するようにコメントがありました。そして、その上で、「私たち日本人が考えるべき視点」として、1. 国益とは何か? 国民の利益を守ること。2. 国益をいかに守るのか? 自分自身で守るのか、守れるのか? 3. 何が制約になっているのか? 何のための制約なのか? いま本当に必要なのか? といった切り口から国際情勢を分析していくようにとのアドバイスをいただきました。

そして最後に、私たちが今後注意すべき点、なすべき点として、1. 相手も国益を優先に考えている。2. メディアを簡単に信じるな。3. 自分自身の頭で考える。4. 国が何かをしてくれると考えるのではなく、自分は社会のために何ができるかを考えよ。5. WIN-WINの解決方法を探せ。といったものの必要性を強調され、今回の講演を締め括られました。

現代社会学部講演会

「イスラム世界の人びと～世界史のなかで考える」

●元東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授 三木亘氏

7/3

長久手
キャンパス



三木氏はもともと西欧史がご専門ですが、漸次アラブ・イスラム世界へと研究を広げられ、それを証するスケールの講演でした。近代化の先駆を担った西北ヨーロッパという地域は世界でも動植物資源の最も貧しい地域であったため、その厳しい生態的現実、動植物資源の豊かなアジア・アフリカという地域への憧憬の念を常に抱かせていたということ。そして、16世紀のコロンブス

以降、ヨーロッパにはアジアとの貿易で売り込むものが毛織物くらいしかなかったために常に貿易として不利な立場にあるのを是正しようとしてきました。しかしうまくいかず、石炭・鉄、20世紀に入ってから地下資源(石油)を利用することを覚え、軍事力を増強し、動植物資源の豊かなアジア・アフリカ諸国を植民地化していったということです。これが、近代世界史と言われているものであると主張されました。この歴史認識に思わずはっとさせられた方は多かったのではないのでしょうか。

文化創造学部表現文化学会学術講演会

「南綾子講演会」

●作家 南綾子氏

7/4

星が丘
キャンパス



表現文化専攻の前身である短期大学文芸学科の卒業生で、2005年に「夏がおわる」で第4回「女による女のためのR-18文学賞」大賞を受賞した新進作家・南綾子氏をお迎えしました。学外から来聴された方もあり、注目度の高さがうかがわれました。

講演会は前半が短大時代の指導教員・島田修三教授との対談、後半が文芸評論家である清水良典教授との対談という対談の二本立てで、短大の思い出、作家としてデビューするまでの道程、デビューからの生活の変化など、興味深いお話をたくさんうかがうことができました。南氏はこれが初めての講演会ということでしたが、聴衆の多くが後輩に当たる学生たちということもあり、リラックスした雰囲気でお話していただくことができたものと思います。

ジェンダー・女性学研究所第18回定例セミナー

「キャリア・デザインとジェンダー」

●金城学院大学教授 宗方比佐子氏

9/20

星が丘
キャンパス

講師にはキャリア心理学の分野の第一人者である宗方比佐子先生をお招きしました。「キャリアは人生です」とのお話から始まり、「キャリア・デザインとは生き方の設計であり、生涯を通しての自己表現」だという先生のご指摘は、誰もが納得させられるものでした。

従来のキャリア・デザイン理論をいくつかご紹介される中で、将来は予測できないから人生をポジティブに考えていくことが重要だという「積極的不確実性理論」の視点から、「夢見ることが大切にするキャリア・デザイン」という話には、参加した学生たちもこれからの人生設計をする上で希望を与えられたことでしょう。

聴衆が参加するジェンダー・クイズも盛り込まれ、また宗方先生の個人的な体験のお話も混じったりして、充実した1時間半の講演でした。



文学部英文学科企画運営 第1回文学部講演会

「Improving your listening skills in English」

●イギリスHilderstone College教授 James Banner氏

5/16

長久手
キャンパス

Banner先生は、東京のブリティッシュカウンシルをはじめ、世界中で英語・文化・コミュニケーションの講演を行っており、今回は英語のリスニングのスキルアップを行うためのさまざまな方法についてお話ししていただきました。Understanding native speakersという副題が示すとおり、英語の聞き取りの際に、ネイティブスピーカーの心理を理解するという視点からポイントをやさしく解説していただきました。スライドや映画や洋楽も用いて、非常に理解しやすく楽しい講演であったため、先生の解説にあわせて英語を何度も発音練習する熱心な学生の姿が多く見受けられました。



文学部国文学科企画・国文学会運営

第2回文学部講演会「季語の面白さ」

●神奈川大学教授・俳人 復本一郎氏

6/22

長久手
キャンパス

復本氏は芭蕉を中心とする俳論の著名な研究者ですが、研究領域は、近世俳諧から近代・現代の俳句・俳人の研究・評論と他に類を見ないほどの広さです。そのうえ自らも実作者として、「鬼ヶ城」の俳号で、実験的俳句集団「鬼」の代表を務めていらっしゃいます。実作者のための季語辞典も編纂されています。当日は芭蕉の「古池や蛙飛こむ水のおと」をきっかけに、氏の持論である「縦題」(近世以前からの季題・季語)と「横題」(近世成立の季語)、そして近代・現代に定着した季語について実例をあげて、その「面白さ」を軽妙に解説されました。また正岡子規の功績についても触れられ、学生も興味深く拝聴していました。



文学部図書館情報学科企画 第3回文学部講演会

「『いいまちづくり 役立つ図書館』をめざして～公共図書館経営について考える～」

●原田市中央図書館長 森下芳則氏

6/26

長久手
キャンパス

地方自治体で「指定管理者制度」が導入され、公立図書館経営もニューパブリックマネジメントの影響を強く受けています。森下氏は長年、日野市立図書館で司書として勤務してこられました。そこでこの経験を生かした原田市図書館の運営について、具体的な例をお話いただきながら、公共図書館の運営をどのように考えていくべきかについてご講演いただきました。他館での状況についても様々なデータに基づいて比較され、将来司書を目指す学生たちにとって、図書館経営の現状を把握できるよい機会でした。学生にとっても現場で日々努力している図書館員にとっても、住民から求められる図書館の役割を考え、そのための図書館づくりをしていくことの重要性を理解する非常に貴重な時間となりました。「今日も出勤できて嬉しい」と、図書館員として働き続けられる幸せを率直にお話しされる森下氏のお人柄があふれる講演会でした。



ビジネス学部第1回学術講演会

「国際社会の中の日本」

●PHP総合研究所 永久寿夫取締役

7/3

長久手
キャンパス

本学部は、ビジネス社会の即戦力を育成していくことを一つの大きな目的とし、理論と実践をバランスよく学習できるシステムや環境を作るべく、外部講師を迎えてビジネス学部講演会を開催しています。今回は日本で最も有名な経営者の一人である松下幸之助翁設立のPHP総合研究所の永久氏をお迎えしました。永久氏のお話は第二次世界大戦後の国際社会情勢からはじまり、今、国際社会の中で日本が置かれている状況について歴史的な評価を加えられた後、「日本